

富士市立高等学校 学校運営協議会		第12回	会議要旨 (平成28年度)
開催日 平成29年2月7日 火曜日 開 会 18時30分 閉 会 20時40分	会議場 富士市立高等学校 2階 会議室		
出席委員 遠藤 陽子 柴田 怜奈 中川加代子 畑 隆 野村 浩美 山田 雅彦 吉村 孝夫 岩田 享 石村 俊樹 植野 秀樹			
開会			
授業参観			
会長・副会長あいさつ ○会長あいさつ ・1年間の富士市立高等学校の運営がいかがであったかを振り返る議題が設けられている。 ・PDCAサイクルにおいて、サイクルの最終段階では全体をチェックして、次の新しい発展につなげていくという意味で、チェックの段階の評価のプロセスはとても大事なことのひとつである。 ○副会長あいさつ ・学校では、2週間くらい前にインフルエンザが出たが、学級閉鎖をすることもなく、大きな事件事故もなく、3月1日の卒業式に肅々と向かっていく。また、高校入試に向かって肅々と作業を進めていくということになっている。 ・今日の学校運営協議会では、1年間を総括し、学校にいろいろな苦言・提言をしていただき、年度に向けてよりよい学校を運営していくためのご指導、ご鞭撻を賜ればと思う。			
議事の概要			
○学校からの報告 ◇進路決定状況について ・1月31日現在で国公立大学には6名が合格している。 ・私立大学では、神奈川大学の受験者と進学者が顕著に増えている。理系の学部も含め、受験者と進学者が昨年度と比べて多くなっている。 ・短期大学は、保育、食品関係の進学希望者が多く、県内の短期大学に進学する生徒が非常に多くなっている。 ・専門学校については、看護医療系あるいは理美容系、調理も含めて希望者がいる。スポーツ探究科に関しては、理学療法・作業療法等、医療に関わる専門学校に進			

む生徒が多くなっているのが特徴である。

- ・就職については、学校推薦を使って就職する生徒に関しては、全員が内定をいただいた。公務員については、自衛官に合格した生徒がいる。

◇海外探究研修について

- ・今年度も 11 月 27 日から 12 月 2 日まで、6 日間をかけて 2 年生が海外探究研修を行ってきた。プログラムも全て計画どおり行うことができた。
- ・総合探究科はボストンに行った。生徒のアンケート結果は、どの項目も約 4 点を超えている。
- ・ビジネス探究科の、台湾での研修の生徒アンケート結果についても、4 点以上になっている。
- ・スポーツ探究科のドイツ・オランダでの海外探究研修になる。平均が 4.48 ということで、およそ満足したということが読み取れると思う。
- ・総合探究科のボストンでの研修で、高校訪問をやっている。一つの高校では、現地の市長が迎えてくれ、町をあげて受け入れてくれた。現地の新聞でも何社か取り上げられた。

◇部活動の主な実績について

- ・11 月から現在までの部活動の主な成績について資料に載せてある。
- ・サッカー部に関しては、夏の高校総体と秋の選手権で県のベスト 8 に入っている。今回は、残念ながら静岡西高校戦に負けてしまった。
- ・女子のバスケットボール部に関しては、4 年ぶりに県大会に出場した。
- ・柔道部も、準決勝で負けてしまったが 3 位ということで立派だと思う。
- ・チアリーダー部は、今回も全国大会に出場した。
- ・特筆すべきは、英語部の生徒が、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト全国大会で優勝した。スピーチの部で優勝したというのは、本県では初めて。
- ・吹奏楽部は、管打楽器アンサンブルコンテスト。こちらは、少人数で出るコンテストだが、打楽器五重奏、サクソフォン四重奏、金管八重奏ということで、三つの団体が出ている。

◇市立高校の検証について

- ・前回の協議会では、平成 22 年から 27 年の間の実施内容について報告をさせていただいた。今回は、平成 28 年度の実施内容について、一覧表にまとめてある。
- ・(資料を基に、平成 28 年度の実施状況について説明する。)

学校からの報告について意見交換

- | | |
|----------|--|
| (質問・意見等) | ・進路状況については、あくまで中間的な状況にすぎないが、昨年度あるいは一昨年と比べ、進路選択で何か傾向のようなものは見られるか。 |
| (回答) | ・専門学校に進学する生徒が、昨年度よりもまた少し増えている。残り 25 名程度の生徒が一般受験に臨んでいる。その生徒に関しては四年制 |

	<p>大学を希望している生徒が大半であり、私立の四年制大学についてはもう少し増える予定である。</p>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校を選ぶ子がかかりの人数いるということだが、その進路を選ぶうえでの動機と言うか、そういう点で何か聞いていることはあるか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校に関しては、自宅から通える範囲の専門学校を選ぶ傾向が強い。東京に出る生徒もいるが、大半の生徒が自宅から通学可能な専門学校を選ぶ傾向がある。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的事情ということも、おそらく背景にはあるのだろう。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学が極端に少ない気がする。去年はもう少しいたような気がするが、これくらいだったか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学希望者の数は減っている。保育、食物栄養の栄養士、そのような資格が取れる学部・学科に希望が集中しているという傾向がある。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり県内が多いのか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内が多い。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・検証の資料に「スクールバスを運行しているが、利用者が少なくこのままだと継続が困難。」という記述があるが、どのような状況か教えていただきたい。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスは4系統出している。利用者は全体で70人と少しになるが、採算を取るには90人くらい必要になる。採算を取るためには利用料金を上げるのか、そうすると今度は利用者が減ってしまうということで、いろいろと検討している段階である。4系統を3系統に集約できないかなど、そういった検討はしている。 貸し切りバスでいろいろな事故等があって、貸しバス会社で値下げができなくなり、バスを利用するにはお金がかかるということも課題である。 また、近くから通う生徒が増えたことも、バスを利用する生徒が少ない理由ある。 そして、やはり自転車の便利さにはかなわないということはある。来

	<p>年度以降についてはいろいろ考えていきたいと思っている。</p>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・経費的な面もあり、事務方が苦勞しているということを聞くので、何かいい方法があつて、気軽にバスが利用できればいいという気がする。魅力ある学校の一つということも含め、なんとかいい方法が見つかるといいと思う。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・この点は開校したときからの一つの魅力でもあり、継続するといいと思う。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・今の話だと、近くの学生が増えているということだった。バスの利用者がいないのであれば、廃止してもいいような気がするが、なかには困る人もいる。 <p>学食も利用者が少なくなっていて、業者が撤退するかもしれないという話があつた。お弁当が多いのか。お弁当はいいことだと思う。ただ、せっかくの魅力ある学食なので。</p>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂があるということで、親は喜んでいて。親は、お弁当を用意できないときに「食堂で食べて。」と。お弁当の子と一緒に食堂に行って食べた。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだん子どもも少なくなっていくので、遠くからの子どもも市立高校に呼び込むために、交通手段も必要になるし、今言つたお弁当のこともある。なんとかいい方法が見つければいいと思う。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・学食の関係だが、元々は、本校は夜までやるというなかで「夜食を」というところがあつた。そこは、いろいろな理由があつて変わってきたと思う。学食については、値段が昔に比べ高いと思うが、人件費などがあつて仕方ないのではないかと思う。改善方法については、事務室と業者で検討しているところである。
<p>○学校評価について</p> <p>◇生徒、保護者、教職員アンケートの結果について</p> <p>◇学校自己評価について</p> <p>(資料を基に、アンケート結果と評価について説明)</p>	
<p>学校からの報告について意見交換</p>	

(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席・遅刻の評価がCだが、これは学校の教職員の問題ではない。でもCにしなければ厳しいのか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・「昨年度より減へ」ということだが、長欠傾向、生徒相談等の生徒が例年よりも多く、減には至っていないということでCである。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では防ぎようのないものがあるから、評価でCにしなくてもいいのではないか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が「減へ」ということなので。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・その年によってこういうこともある。この年度は多いとか少ないとか。数字的に、昨年より多いから少ないからではなく、そういうところで考えたときにいかなものだろうか。去年より人数が多いからという、それは学校ではどうしようもないものがある。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の生徒の数で増えてしまうということは、事実としてある。成果目標の立て方として、そういうものを除いた、他の一般の生徒がどうであるかということも一つの考え方だったと思う。ただ、全部を含めて考えていくと、学校としてはCを付けざるを得なかったと思う。今後の成果目標の在りようを少し考えていきたいと思う。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、学校教育というのはそれぞれの当事者の責任だと思っている。遅刻・欠席のことについて学校が責任を負う必要は全くないと思っている。だから、その数によって学校の評価をCにする必要は全くない。遅刻・欠席というのは、親は学校へ行かせる責任があるし、生徒は学校へ行くという責任もある。学校がどこまで責任を負って目標を立てるのかということは、もう一度吟味する必要があるのではないかと思う。 先生たちが何かから何まで引き受けてしまうと、本来高等学校がやらなければならないことがパンクしてしまうのではないかという危機感を、私自身は持っている。これは全く個人的な意見である。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに市立高校に対する意見を聞いたときに、みんな同じようなことを言った。「市立高校は、色があっさりしない。」と。「開校のときの精神が、ぶれ始めていないか。」ということをおっしゃる方もいる。 私は、市立高校に来させていただく機会がすごく多く、授業を見させ

てもらったりしているが、高等学校に対するイメージが覆されている。新しいことをやろうとしている、挑戦している学校だという気がする。それが全く伝わっていない。市立高校は、全くコマーシャルが下手だと思う。例えば、毎月中学校向けにおたよりをつくって、「皆さん知っていますか？皆さんが大学に行くときには、大学入試制度が変わりますよ。」って。そういうことを中学生は知らないのです、こういうふうになるということを書いて「実は、市立高校では先取りした授業をしていますよ。」というようなおたよりを毎月出せば。要するに、市立高校で賭けてみるかという子をどれだけ増やすかだと思う。学校の先生方が考えている理想だとか精神だとかをここにぶつけて、「こんな世の中だからこんなことをしています、そこで市立高校ではこうしています」って。そういうおたよりを毎月つくって、それを各中学校に発信するというのが、作戦としてはいいのではないかな。

中学校は、市立高校の情報が全く入ってこないのです、どんなことをしているか全然分かっていない。こういう先進的なことをやっていることも知らないのです、結局、「なんだ、国立6人か」ということで終わってしまう。いかに市立高校が面白いことをやっていて、そこに挑戦してみようというレベルの高い子を引き入れていくかということが、戦略としてはこれからすごく必要だと思う。学校が目指している方向というのを、中学校の子どもたちや家庭向けにぶつけていくというのが、いいのではないかな。だから、「市立高校がぶれてきているのではないかな。」というのは、すごく気になっているところがある。

(質問・意見等)

・指摘いただいた対外的アピールを、自己評価に組み込めない。つまり、評価の枠組み自体で不足しているものがある。

(質問・意見等)

・「教科会議の励行（隔週1回実施）」は、毎年課題として挙がってくる気がする。こういう課題の設定の仕方がいいのかどうか疑問に思う。おそらく、ここは毎年Cになってしまうのではないかな。

(回答)

・隔週1回できていなくても、必要に応じて教科会議は、時間のやりくりをして開いている。指摘のとおり、隔週1回という成果目標が妥当かという点もあるのではないかと。

(回答)

・実は昨年度からこの様式を取り入れた。5月か6月くらいに、県に合わせようということで途中から始めた。本来であれば、この成果目標は各課、分掌の方でよく練って出さなければならないものであったと

	<p>思う。ただ、そういう経緯があったので、管理職である程度考えさせていただいたので、分掌でよく練られたものではなかったという反省がある。そして、2年目で経年比較をした方がいいということで、あまり大きな手を入れてきていない。やはり、指摘のとおり、成果目標の設定自体がどうかというところがある。次年度はその辺りを、昨年度いただいた意見も加味しながら見直しや改良していきたいと思う。</p>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・この自己評価の表は、県立高校とか、そういうモデルがあるのか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・県が示しているマニュアルがある。県が示しているマニュアルのとおりにつくって、それをホームページに開示している。本校だけが特別変わったことをやっているわけではない。Aが付いて明らかに目標を達成している場合には、数値目標を変えるとか、あるいは十分に達成しているので中身自体の文言を変えていくという作業は少しずつやっていく。しかし、まだ1年目、2年目なので、昨年度から大きく変えてこなかったというところに、大きな理由がある。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容が分かる生徒の割合」の達成状況に、「学科や学年の差異は余りなかった。」となっていて、成果と課題では「1・2年生の割合は上昇し、3年生の割合が下降している。」となっている。この二つは矛盾していてよく分からなかった。これは差があると思う。アンケートでも、「週に5日以上、家で勉強をしている。」という割合が、3年生が一番低い。受験などを考えると、増えるのがあり得る方向だと思うが、一番低いのが少し気になる。このアンケートと、分かる生徒の割合の下降というのが、中身的に重なる。そのことと、学科や学年の差がないというのは食い違いがあるので、まずはこの表における叙述がいまひとつ飲み込めなかった。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いなく学科の差はある。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートをとる時期の問題ではないか。進路が決まった子は何も勉強しなくなってしまうので、評価は当然下がる。進路を決めようと、一番燃えているときにアンケートをとれば、勉強をしているので評価が上がる。アンケートはいつとったのか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月である。

(質問・意見等)	・進路が決定している子もいると思う。
(回答)	・就職と専門学校はもう決まっていると思うので、3年生は勉強しなくなると思う。
(質問・意見等)	・この自己評価は、ホームページに載せるのか。
(回答)	・載せる。
(質問・意見等)	・開示しなければならないのか。
(回答)	・委員の皆様は外部評価をしていただき、それを開示していくということが法律で決まっている。
(質問・意見等)	・見たときにCは何だろうと、そういうところに必ず目が行く。教職員がこれだけがんばっている。それが、がんばっているけれども評価としてはとても残念。どうしたらいいか。
(質問・意見等)	・先ほどの会議の問題なども、隔週1回ということも決まっているのか。
(回答)	・毎週とは限らないが、他の学校は教科会議を時間割のなかに入れる。高校は、だいたいどの学校も同じである。
(質問・意見等)	・隔週1回というのは、この評価基準として決まっているのか。
(回答)	・本校だけが突出しているのではなくて、どこの高校もこれくらいである。
(質問・意見等)	・評価もこれくらいか。
(回答)	・評価は分からない。
(質問・意見等)	・先ほど質問したところは、昨年の資料とつき合わせて分かってきた。下がってしまったということで、悲観すべき傾向だと思う。とる時期の問題もあると思うが、3年生で下がっているのはあまり望ましいことではない。

(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・とった時期は去年と同じか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・同じで、去年も1月である。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・「学科・学年別懇談会の出席率」も3年生の参加率が一番低いという結果が出ている。PTAとしても来年度の内容について検討したいと考えている。また、自己評価に直接項目はないが、南稜祭のときにバザーをやっており、バザーの回収率も去年より品数が減ってきている。その辺りも、親が学校に対するいろいろな興味と言うか、そういうものが薄れてきているという印象がある。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容が分かる生徒の割合」と、「学校で勉強した内容をもっと知りたいと思う生徒の割合」を、この学校は70%と60%と目標値を設定している。そういうことに関して全国的な平均や、県だとどういう感じだというものはあるか。中学校で調べても、学校で勉強をした内容をもっと知りたいと思う生徒は50%を割っていると思う。これは大きな課題である。だから、45%という数字は、相当高い数字ではないか。もし、全国的な比較するものがあれば、設定値自体が検討に値するものになってくるのではないか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・県では、この文言で集計して出してはいない。中学校だと、50%いかないのか。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうものでアンケートはとっていないので正確な数字は分からないが、いかないと思う。これは理想とする学びの姿である。探究できるような生徒が育っていることは、学校の大きな自慢ではないかと個人的には思う。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・60%と比べると45%ではCになってしまうが、そういうことからすると、むしろ45%までいっていると考えると、Bという評価が付くのではないか。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりと覚えていないが、おそらく県のものが50%近くだったと思う。そういうなかで、本校は探究学習をメインに据えているので、目標を少し高めにしたらどうかと昨年度考えて、この数字になったと思う。ただ、実態や他校とのことを考えていった場合に、やや厳しい数字ではあったのかと、個人的な感想として思っている。

<p>(質問・意見等)</p>	<p>・オのなかで「探究学習の発表」はAが付いている。私も聞かせていただき、非常にいい報告がいくつもあった。そういう報告のなかで生徒の成長というものも促されていると思った。そういう探究学習の発表会が行われていることとも関連して、先ほどご指摘があった45%というのは、おそらくそういうことが行われたい状態と比べて引き上がっていると言うか、より上昇していつているのではないだろうかと思う。したがって、この部分を総合して考えるとBではないかという気がする。</p> <p>今のCのところはBに変わってもいいのではないかと思う。全体のBという評価は、CがBになって、全体としてはAの数が多いので、ここは全体としてもAのような気がする。もし異論がなければ、そのように修正させていただく。</p>
<p>閉会</p>	